

昨日(11月5日)初霜がおりました。いよいよ薪ストーブの登場です。そして、もみじヶ丘のもみじも最高。週末のせんぜんさんさんの舞台が楽しみです。

台風被害 雨が多かった天候不順の10月、様々な出来事があり、今でもまだまだ復興中です。本当に心からお見舞申し上げます。

この怒濤のような10月、全ての場面 世界で全力投球、心身共にエネルギーを注いで下さった熱い大地保護者の皆様方のお陰で、素晴らしい子ども祭りが無事終了しました。災害 復興支援などで、各種のお祭りや行事が敬遠されたりする中で、いち早く復興作業に連続的に参加しやることはやり、そして全てに頑張ってやり遂げる事は、全く後ろめたさもなく、清い暮らしだと、私たちは思っています。本当にありがとうございました。

今年の秋ほど というよりも 今年度ほど農業や土に親しみ、本格的に向き合った年はありません。自然農の畑(じゃがいも サツマイモ 大豆 枝豆 各種野菜)そして無農薬田んぼ。チェーン除草に始まり、極めつけの一週間連続稲刈り、そして脱穀作業。畑や田んぼに通った日数 時間は、例年の5倍以上にのぼったように思います。お陰で、竈で作り上げた、フライドポテトや石窯焼き芋、そして新米の味は、本当に美味しいです。個人的にも、毎日頂く無農薬米のコシヒカリは、今までの人生の中でも最高にうまいと感じています。これらは、やはり、最初から最後までその過程を満喫してきた賜だと思っています。

同じように、人生は 結局 その過程の味わいでしょか。人生は、その目的を目指して生きる(金持ちや名誉や地位)のではなく、一見無駄だと思えるような営みに全力投球しながらの過程が味わい深いものになっていくのでしょうか。効率化や快適さなどは、目的への近道であるかもしれませんが、その過程での窓辺からの風景の味わいを見落としてしまいがちですね。



【大地特殊部隊】

台風19号の世界。大地は 川の恐怖はありませんでしたが、樹木や風のそれはあり、一晩中恐ろしい風雨と停電に怖れおのき、早朝にあちこちバイクで点検して歩き、田んぼのハゼの転倒とリンゴ落下、そして裏山の倒木の被害などでひとまずほっとしたつかの間、テレビやラジオ ネットもない中、千曲川氾濫の大きな被害がどこからか聞こえてきて、東日本大震災にも劣らない被害だと知り、呆然としました。そして、大地のOB宅も大変なことだと知り、ボランティアの体制整備などを待たずに、とにかく一番被害の大きな所に初期初動、とにかくやるしかないと思えました。

学生、そしてお休みを利用しての週末参加の社会人ではなく、一番子育てで ボランティア参加などに縁遠い主婦達一般ボランティア(朝10時半から2時半終了)以上に、休み時間なく全身全霊全力で3日連続お手伝いできたパワーは凄かったです。やはり女性のすごさを感じました。後日知った事ですが、ボランティアには、入念な服装等のマニュアルが新聞等で示されていますが、大地主婦特殊部隊の初日の服装は、いま思い起こせば凄かったですね。ボランティアと言うよりも、当事者そのお宅の親類縁者が、とにかく駆けつけたという状況でした。

何が必要か、どんな段取りがよいのか、何が優先か、何が困っているのか周囲の状況、そして、人員の効率的な動きなど、こんな時こそは、目的への効率化のみです。過程ではなく、いかに復興と言う目的のために、効率化を図るマネジメントが必要だと考えます。大地特殊部隊の主婦達は、まさにボランティアの大先鋒だったように思います。

被害者の大地OBには、「命ある限り大丈夫!!」「必ず良いことが待っている」月並みの言葉をかけてきました。誤解を覚悟で申し上げますが、家や土地などの物は、なんとかなりますが、命はどうにもなりません。お金や寄付金や義援金があっても、命の復興は出来ないからです。

思い起こせば、青ちゃん個人も、長崎での自転車転倒事故及び文庫火災は 人生最大の2大危機でした。(もうこれからは、それを越すことが無いことを望みますが) これらも、自らやりたくて起こした危機ではありませんでしたが、それらと呼び込む要因があったのでしょうか。しかし、命が助かった、ある限り絶対大丈夫!! という妙な自信が常にありました。そして、一番 前へ進む最大のエネルギーは 「人間 人」でした。自転車転倒事故の時は、妻であり、文庫火災の時は、同級生と長男野球部のこども達でした。

1月1日元旦朝の火災。家族6人が見守る中での文庫消滅火災。呆然と何が起こったのかわからない中、「必ず復興してみせる」と強気を持ちながら、その夜、家族で完全鎮火を見届ける暗闇の作業中に、ふと人の影。長男の高校野球部のキャプテン(卒業して3年目位)が立っており、「片付け作業に明日皆で来ます、同級会で皆集まる予定でしたが、お手伝いできる事があれば」と。翌日の大雪の中、奇妙な片付け同級会が大地で盛り上がり行われました。この時の事は忘れられません。「新しく文庫が完成したときは、必ず皆を招待して盛り上がり」と誓い、2年後に皆で祝い合いました。文庫火災は、薪ストーブの設置ミス(壁の断熱不足)による加熱によるもので、自分の知識不足による原因でした。人的被害や幼稚園運営の障害もなく、3学期保育の支障はありませんでしたが、一部心ない言葉を受けました。一生涯反面教師としてこの言葉を忘れること無く、困った人、災害に遭った人達に対して、何をどのようにしたら良いのか、絶対に口にはいけないことを学びました。自分で招いた災害 自然災害 故意による災害などいろいろありますが、何よりも日常を失った被災者は、どんな原因にしろつらいものです。まず、それに寄り添い、手助けするために自ら動くことの大切さ、そしてありがたさを知りました。そして、最終的には、夫婦や家族や人が最大の復興エネルギーでありながら、逆に、妨げるエネルギーにもなり得る危機も含んでいる表裏一体のものです。

特に被災者(自分も小さな被災者でしたが)は、何が起きたか呆然として、現実を受け容れるまでには時間がかかります。文庫火災の時は、その現実をすぐに受け容れ、その事実をすぐに消し去り、次のスタート台に立って進んでいきたいと思いました。そして、翌日には、彼らの手助けで0からのスタートに立つ事ができ、すぐに残った絵本で、3学期から今の大地ミニの部屋で、文庫活動をスタートすることが出来ました。現在の文庫は、彼らがまずスタート台に立たしてくれたのだと、心から感謝しているのと同時に、自分のあり方を教えてくれたものと思っています。そのキャプテンは、高校の時から願い通り、高校教師となり野球部の監督になり、素晴らしい子どもたちを育てています。

子ども祭りでのお話「ふしぎな胡弓」 弟は、すぐに洞穴に入り、人を助けに行きました。お姫様を助けた後、水の国の王子がうめき声を上げている所へ、すぐに近寄って助け上げました。そして、無駄な戦いで命を落としそうになる敵をも助けました。更に、きっと兄さんも、清い心で赦したのでしょうか。いち早く自ら行動を起こし、相手に寄り添い、駆けつける、慈愛の心を持って。もちろん、ありがた迷惑にならないことを調整しながら。でも、それを怖れることなく、愛と行動を持って駆けつける勇気と強靱な精神力と身体を備えて、常にスタンバイしている人生を歩み続けたいと思っています。